

全高書研会報

全日本高等学校
書道教育研究会

事務局

埼玉県立志木高等学校
〒353-0001
埼玉県志木市上宗岡1-1-1
山下 剛
TEL 048-473-8111
FAX 048-470-1061

出版部

三重県立亀山高等学校
〒519-0116
三重県亀山市本町1-10-1
竹嶋 秀聡
TEL 0595-83-4560
FAX 0595-83-4567

印刷

光出版印刷株式会社
〒515-0044
三重県松阪市久保町1885-1
TEL 0598-29-1234
FAX 0598-29-0265



第四十三回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会を振り返って

宮崎大会長 長津 和彦

(宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校長)

昨年の十一月十五日(木)、十六日(金)の二日間にわたり、第四十三回全日本高等学校書道教育研究会を、全国から約二百名の先生方をお迎えし、宮崎市で開催いたしました。

大会のテーマを「書道教育の可能性を考える〜自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成〜」と設定しました。近年知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速し、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展しています。そのような変化の激しい社会に対応していく子どもたちを育てていくことは、全ての教育活動において急務となっております。芸術教育においても、生徒が主体的・対話的で深い学びを身につけるとともに、我が国の文化を理解し、継承しながら、広く文化を受け入れ、世界中の人々とつながることができ、人材へと成長できるような教育実践が求められています。

そのような中、芸術科書道の授業においても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していける人材へと生徒を成長させるための質的変換を求められています。本県においても、芸術科書道の学びにおいて、生徒によりよい変容をもたらす可能性や効果がどのくらいあるのかを解明するために、数力年にわたり授業研究や協議を重ねてきました。本大会でも、本県も含め多くの実践例をテーマに沿って発信した大会でした。

授業研究では、「生徒の主体的な学びを意識した授業」をテーマとし、本県から二つの授業を公開しました。漢字仮名交じり書の学習においては、これまで、生徒自身が紡ぎ出した言葉や伝えたい言葉などを表現していました。今回の授業では、自詠の歌をもとに、どのように生徒たちが感性を働かせ、他者と協働しながら作品を創り上げていくのかや、生

徒の主体的な取組が作品や表情等に満ちあふれることで、更に個々の感性を高めていく内容でした。

研究発表では、次代を生きる子どもたちが、故郷の文化資源を見つめ、育み、つなげることができるように宮崎に関する教材の掘り起こしを行い、今回は郷土の歌人若山牧水の詠んだ歌などを授業で利用できる教材として整理し、その活用方法を探ったり、生徒が制作の過程を通じて、書で自らの心情を表現することの喜びや難しさ、達成感等を味わいながら感性を高めていくなどの内容でした。指導案については、大分県では約六割が毎年あるいは勤務校によって変えていたりしています。それを検証する場が持たず、苦勞しながら試行錯誤を繰り返している現状がみられました。そこで指導案を共有化することによって、検討や研修

は勿論、相互評価など自分だけではなかなか取り組まないことなどにチャレンジ

でき、指導法の幅が広がるという内容でありました。また、自分の直感で感じた古典の印象やイメージである直感的鑑賞が分析鑑賞の結果とどのように関連していくのかや、これまでの古典の臨書や鑑賞活動中心から創作活動に変え、多字数作品の全体構成を考えさせたり、漢字と仮名の調和を理解させるなどの内容でありました。誌上发表では、全国の先生方の授業における展開事例や教科指導の工夫改善等の紹介をしていただきました。ここで誌面をお借りして心から御礼を申し上げます。

結びに本大会が、我が国の書道教育を今後考えていく上での、一つの糸口になればと考えております。各学校に戻られた後も、本大会の成果の数々を是非とも生かしていただき、書くことの楽しさは勿論、生涯をかけて探究し続け、瑞々しい感性を持ち合わせた生徒を一人でも多く育ててほしいと思います。本大会の開催に当たりまして、文部科学省豊口和士教科調査官、全高書研荒井利之会長を始め、本部役員の皆様方、その他多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

宮崎大会

第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会が、平成三十年十一月十五日(木)・十六日(金)の二日間にわたり開催されました。

宮崎市民プラザ

会場

総会 十五日(木)十時～十一時

開会式

十一時十分～十二時

情報交換会

十三時十分～十四時十分

授業研究・研究協議

十四時二十分～十六時三十分

分科会

十六日(金)九時～十一時

全体会・閉会式

十一時十分～十二時

講演会

十三時十分～十四時十分

授業研究・研究協議

A 生徒自ら課題を 発見し、解決する 魅力ある漢字仮名 交じりの書

生徒の自詠の
短歌をもとに

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校
教諭 湯地 和美

この度の全高書研宮崎大会では、授業研究・研究協議では、多くの先生方にご参加頂き誠にありがとうございました。

宮崎県では、平成二十七年年度から二十九年度まで、県の企画「伝統文化教材開発」で、郷土の歌人若山牧水について取り組んできました。三十一字のなかに自分の気持ちを込められる短歌の世界に私も魅了されていきました。「漢字仮名交じりの書」では生徒にどのような言葉を書かせるかが、ここ数年の課題でした。そして、生徒に自詠の短歌を書かせることにしました。今回は、初めて国語科との連携で短歌作りの授業を行いました。短歌作りのポイントをわかりやすく指導され生徒たちも作り方の要領を得たようでした。また、古典も蘭亭序から争坐位稿に変えました。これは、直筆蔵鋒による深い線を生徒に味わってもらおうのが大きな目的でした。これまでやってきた蘭亭序では線が浅くなりがちであったのも理由の一つです。そして、グループ学習を通して、争坐位稿に調和する仮名を生徒自身で作らせたり、構成を考えさせたりとグループで協議させる場面を積極的に作りました。生徒達が色々なアイデアを出し合いながら作業をしていたのが大変印象に残りました。そして、いよいよ自詠の歌の作品作りに入

りました。ここで、生徒に示したのが、新学習指導要領における「漢字と仮名の線質の調和」でした。本年度はまだ周知徹底の期間でしたが敢えて生徒に示しました。作品を制作していく上で、漢字と仮名の調和を一番のポイントにしました。前時においては、グループ学習で作品批評会を行い、自分の作品の課題は何かを考えさせ、本番に臨ませました。当日は、生徒達に助けられなんとか授業を終えることができました。

その後の研究協議では、「目標と評価との関連や目標の立て方(文章が長すぎるのではないかな)等貴重なご意見をいただきました。特に評価のあり方については、今後の課題であると感じました。書道教育を通して、これからの生徒達にどのような力を身に付けさせなければならぬのか、この授業研究を通して書道教育の可能性を考えることができた貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。



B 漢字仮名交じりの書

自国の文化を
見つめる

宮崎県立宮崎大宮高等学校
教諭 本田 淳也

この度の全高書研宮崎大会における授業研究および研究協議では、多くの先生方から大変貴重なご意見、ご感想、ご助言等を頂き、誠に感謝に堪えません。

本授業研究の視点として、生徒自らが協働学習を通して主体的、対話的に学び、自国の文化に誇りを持ちながら、効果的な書表現ができることを掲げました。また、ポスターという形式も視覚的效果を重視したものでした。これらの視点を基に研究協議やその後の話題になった事柄が以下になります。

①二人によるペア学習について

参加された先生方からも普段から様々な学習形態を実践されていることを伺いました。どれも単元の目標や生徒の実態に即したものでしたが、本単元では終始二人によるペア学習で多角的、客観的学びが効果的に展開でき、最終的に想定以上の作品の完成に至りました。対話で他者を尊重しながら自己と向き合い、自らの役割や責任を作品制作や鑑賞活動の中で実感できる場面が多く見られました。

入試・就職に有利！履歴書にも書ける資格！
文部科学省後援

硬筆・毛筆書写技能検定

- 試験日
 - ◎平成31年度第1回 6月16日(日)
 - ◎平成31年度第2回 11月10日(日)
 - ◎平成31年度第3回 32年1月26日(日)
- 試験地
 - ◎全国主要都市。10名で試験会場設置可
- 受験料

- ◎大学・短大の入試で優遇、高校の増加単位に認められ、資格取得のため、履歴書に書け、就職、進学に役立つ。
- ◎受験者必読書刊行…申込みは検定協会へ
- 硬筆書写検定手びきと問題集 (定価2,000円・別途送料)
- 毛筆書写検定手びきと問題集 (定価2,300円・別途送料)
- ◎願書請求方法
協会にご請求ください。(無料)

一般財団法人
日本書写技能検定協会
〒170-0005
東京都豊島区南大塚3-41-3
TEL03(3988)3581(代)
FAX03(3988)3528
http://www.nihon-shosha.or.jp

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級
硬筆	6,500円	5,000円	3,500円	3,000円	2,500円	1,500円	1,200円	900円
毛筆	7,000円	5,500円	4,000円	3,400円	3,100円	1,700円	1,400円	1,000円



また、ペアの作り方については個々の生徒の実態を配慮して、バランス良くマッチングすることが重要であると実感しました。

②現代風料紙加工について

書の背景として様々な加工を施すことに当初は抵抗もありましたが、書を際立たせる視点を失わず、「現代に生きる表現」として生徒自らが積極的に楽しんで取り組むものでした。参加された先生方からの反応も肯定的意見が多く聞かれ、時代の変化とともに求められる書の姿を再考したところです。課題としては表現が多岐にわたるため事前準備や片付け、個別指導に苦心することが挙げられます。

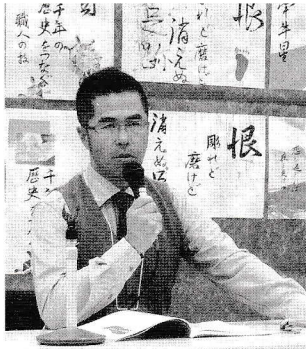
今後の展望として、様々な和様風表現の用具用材に興味関心を抱かせ、美術教諭や美術選択生との連携を図り、相乗的に書の美を探究していきたいと考えています。

③書表現について

本単元までの年間指導計画を一学期の仮名の書、二学期の行書と系統性を図ったことは大きな反響でした。通常の楷書、行

書、仮名の書の順序に比べ、仮名の書の学習要素がそのまま行書に生かされ、漢字と仮名の調和に無理なく繋がられました。「行書と仮名の調和こそが漢字仮名交じりの書の美」という持論に基づくものですが、他の楷書や篆刻の学習等からの展開にも興味あるところです。

また、書表現としての要素(文字の大小や余白、潤滑等)がポスターだと生徒には分かりやすかったようです。背景との調和を図り、多角的な見方、表現は仮名の書が効果的に生きていたと実感しました。



本大会を終えて振り返ると、授業研究の機会をいただいたことは書道教諭として改めて書道教育のこれからや可能性を考えるものとなりました。「書くことが楽しい」「芸術はいい」と心からそう思える生徒の育成のために、今後より一層、目の前の生徒一人一人と向き合い、いつでも不易流行を追い求めながら研鑽を重ねてまいりたいと思います。

分科会

A 漢字仮名交じり書の効果的な指導法

①「郷土の歌人若山牧水の短歌を生かした漢字仮名交じり書の制作」

宮崎県立延岡高等学校 教諭 木佐貫 弘志

この度、全高書研宮崎大会の分科会で発表する機会を得て、参加された全国の先生方より貴重なご意見やご助言をいただくことができました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

当初、研究発表は、宮崎県の高校書道部会で平成二十七年より三年間にわたり取り組んできた「宮崎県伝統文化教材の研究・開発」の成果を中心とした内容にしようと考えていたのですが、事前の発表の場で、自らの実践に重点を置いた方がよいとの指摘をいただきました。本番では、県内における取り組みをまとめた部分と、自分が勤務する延岡高校での授業の報告の二本立ての内容としました。

前半は、県の事業の主題設定のねらいや関連する書道部会の行事から始まり、まとめとして作成した「牧水の歌を書く」と

題するパワーポイントによる鑑賞教材の紹介を行いました。後半では、平成二十九年度に自校で実施した牧水の短歌を題材とした漢字仮名交じりの書の単元の授業の流れや、実践を通して明らかになってきた課題を発表させていただきました。

研究協議では、題材とする言葉から感じ取ったイメージを、生徒がいかに自分自身の力で、書として表現しようとしているか、という点について、質問や意見、助言を頂戴しました。

若山牧水の短歌を生かすというテーマを掲げるからには、最も重要な視点であり、書表現の本質に関わる問題です。今回は、作品を構成する要素を①イメージ②字形③線質④全体構成の四つに分けて生徒に示したのですが、古典をもとにした表現を目標としたこともあり、最後は技能の部分に指導が偏ってしまいました。言語と書表現との関係については、題材の選定や評価

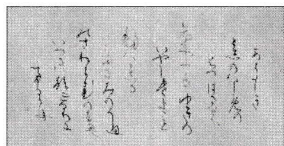


書道・国語専修 書道教育コース

幼・小・中・高校(書道) 現役教員採用合格

高等学校(書道・国語)と共に、幼稚園・小学校・中学校・学校図書館司書の教員免許状が取得できる。

平成29年度教職就職率含む 99% 資格を取得して地元就職



『改組新 第4回 (平成29年度)日展』に 岐阜女子大学大学院生 初入選

大学院2年上山 恵里さん 「杜甫詩」行草書体・2×8尺

岐阜女子大学・大学院 〒501-2592 岐阜市太郎丸 80 番地



の在り方も含めて、今後の大きな課題と考えています。

漢字仮名交じりの書の単元を年間計画の中でどう配置するかという問題や、この単元でのねらいをどこに定めるかという点についても、様々な考え方があ

ることが分かりました。目標を明確にして、他の単元との関係も考慮しながら授業を組み立て、学んだことを生徒が将来に生かせる指導を目指す必要があると感じました。

②全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会を終えて

大分県立大分舞鶴高等学校

教諭 佐藤 睦

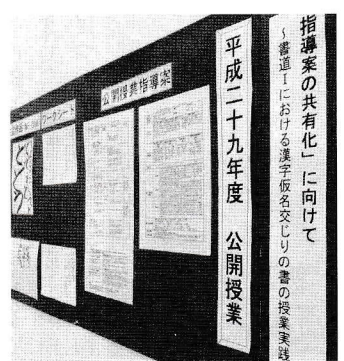
分科会(研究発表)として『指導案の共有化』に向けて『書道



Iにおける漢字仮名交じりの書の授業実践』を大分県を代表して発表させていただきました。一つは、大分県の書道教員が一丸となって研修を進めてきたこと。一つは、共通の指導案やワークシートを使ってそれぞれが授業実践したこと。この二つの報告をさせていただきました。大分県高等学校教育研究会書道部会では、研修部が中心となつて、グループ研修、夏季研修会、公開授業研究会と段階を踏みながら、この大会での発表を視野に入れて進めてきました。宮崎での発表も、個人ではなく部会としての発表という意識で、みんなで研修に取り組めたと思つています。

また、今回の研修での成果として、感情を可視化する思考ツールの活用が挙げられます。この座標軸を使つての可視化は今後、鑑賞にも応用できそうだと考えています。ところで、今大会までの研修の中で私が個人的に気づいたことは、自分なりに工夫・実践してきたつもりが「指導のあり方や教材」も自分の狭い範囲の中の工夫だったということ。『共通の指導案』の開発に向けて研修を進めていく中で、新鮮な題材や思考ツールなどが登場しました。自分だけでは思いつかなかったものです。そして、それ

新たな授業展開が生まれました。今回、一つのテーマ・課題に向けて会員全員で研修ができたことは実績となりました。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に向けてもまた一丸となつて取り組んでいきます。これから未来を担っていく生徒たちを導いていかなければならない私たちにとって、研究会や研修会は研鑽の場として大切なものです。こうして参加させていただき、全国の研究会の必要性やありがたさも改めて感じています。宮崎に集つた全国の先生方からたくさん学びをいただきました。最後にになりましたが、大会運



B 生徒の主体的・共働的学びを引き出す 効果的な指導法

①『感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育』
『直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ』

宮崎県立日南高等学校 教諭 南 裕之

この度、全高書研宮崎大会の分科会B研究テーマ「生徒の主体的・共働的学びを引き出す効果的な指導法」という表題で、「感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育」直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ」

絶え間ない研究の精華を放つ 豊彩潤沢の高級液体墨

書芸吳竹 天衣無縫 磨りおろし生墨 さらさら光る書道液金のきらめき

銀のきらめき

株式会社 呉竹 〒630-8670 奈良市南京終町7-576 TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

Kuretake

先生方のアドバイスで進化し、天然膠で書きやすさ抜群を誇る書法一品

固形墨から造り直した液体墨 350g

斜硯板 斜硯板 斜硯板

墨を科学して表現を広げる

〒630-8043 奈良市六条1-5-35
Tel:0742-52-0310 Fax:0742-45-6880
mail: info@boku-undo.co.jp
URL: http://www.boku-undo.co.jp/ 東京店・福岡(営)

創業文化二年 株式会社 墨運堂

の実践報告をさせていたただきました。発表当日は全国からお越しいただいた多くの先生方にご助言とご指導を賜り、誠にありがとうございました。

宮崎大会のテーマである『書道教育の可能性』を考えると、これからの書道教育に宮崎からどのような問いかけや、実践報告が出来るか考えてきました。

書道教員として採用されて九年目ですが、表現活動と鑑賞活動とのバランスや効果的な指導法については、いつも心を砕いてきた分野であり、それゆえに様々な可能性を秘めた研究分野だと感じています。

今回の研究においては、高校書道の授業の比較的初期段階において鑑賞を経験させる事を試みました。古典の鑑賞や表現を通じて感性を磨き、『書の見方・考え方』を身につけることが、生活や社会において書との関わりを生み、書への愛着心を育み、生涯にわたって書に関心を持ち、書と関わりながら豊かな生活を送る生徒を育てることに繋がる可能性があるのではないかと、という仮説のもと、実践を試みました。

具体的には、ワークシートの作成を通じて、自分の直感で感じた古典の印象やイメージである「直感的鑑賞」が、「分析的鑑賞」と関連している事に気づかせる事に取り組みました。

そして、そのことが『書の見方・考え方』を知ることに繋がり、以後学習していく様々な古典の臨書や創作活動に活用されて、引いては自分の意図する表現の気付きに繋げられれば、そこには大きな可能性が広がっています。

また、ワークシートの内容を鑑賞文の作成にまで反映させると、鑑賞文を書くという思考力のある作業の中で、学習内容を生徒がどの程度理解しているか把握でき、『書の見方・考え方』をより、確かな物にしていくことが可能です。

これからも授業を通じて、多くの古典に触れる中で、さまざまな『書の見方・考え方』に気づかせ、書作品の持つ多様な美しさや良さを伝え、生徒の表現力や感性を磨いていきたいと思えます。そしてそれが、高等学校で書道を学び、これからの時代を生きる生徒達に私たちができる教育なのだとして再確認しました。

今回の発表は十分な内容とは言えませんが、研究協議



では「鑑賞で取り上げる古典の背景知識」「分析的鑑賞」「臨書活動の取り組みませ方」「表現と鑑賞のバランス」など多くのご意見やご指導を頂き、ありがとうございました。研究発表に参加していただいた先生方のご感想からも、同じ内容に取り組み

れるなかで先生方が感じておられる悩みやご意見、ご助言を頂き勇気をいただきました。発表に参加していただきました多くの先生方に感謝申し上げます。

最後になりましたが、宮崎大会での発表に向けて、これまで懇切丁寧にご指導賜りました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の豊口和土先生、全高書研の荒井利之会長をはじめとする本部役員の先生方のご指導とご尽力に心より感謝申し上げます。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い致します。ありがとうございました。

②「生徒が思考・表現すること」で理解を深める教科指導法の改善

熊本県立玉名高等学校

教諭 仲原 幸代

この度の全高書研宮崎大会において、分科会研究発表B「生徒が思考・表現すること」で理解を深める教科指導法の改善」と

いうテーマのもと、発表をさせていただきました。全国の多くの先生方から、御意見や御教授をいただきましたことを、この場で深く御礼申し上げます。

今回「漢字仮名交じりの書」の単元において「題材に自作の和歌を用いる」「作品構成の土台に仮名の三色紙の構成美をいかにかす」の二点を柱に実践したことを発表しました。その中で「生徒の主体的・協働的な学び」をどう実践するか「生徒が思考・表現し理解を深める」にはどうしたらよいかと考えながら実践を展開しました。

まずは、制作に対する意欲や関心が高まることを期待し、国語科との連携を図りました。生徒は百人一首から好みの和歌を一つ鑑賞し、その解釈を三十一文字の現代語で詠む活動に取り組みました。また、作品に表情を付けていく為に豊かな表情をもっている古筆を紙面構成の参考にしようと考えました。和歌制作においては、高校生の瑞々しい感性が溢れ、生き生きとした生徒の姿が見られました。この学びの過程が書道だけにとどまらず文字文化について関心を持ち、創造力を働かせる学習活動に繋がったと思います。また、「三色紙」の鑑賞では、構成美が理解できるように、それぞれの古筆において文字の大きさや行間を加工し、それを比較対象

として提示しました。生徒は余白や墨色の変化から奥行きを想像したり余韻を感じ取ったりしていききました。互いに感じ取ったことを発表し合うことで書の「見方」が広がり、作品を様々な視点で味わう生徒の姿が見られ、「協働的な学び」によって理解が深まったと感じます。生徒の意欲的かつ熱心な作品制作の姿に出会えたことはとても嬉しいものでした。主体的・能動的な活動を設定すれば生徒はおのずと制作に向かい、様々な感受と表現とを重ねていくものだと分かりました。

「漢字仮名交じりの書」の指導に悩み、不安を持っていましたが、実践し報告をさせていただいたことで新たな糸口が見えました。研究協議会ではコメントーターの先生から、和歌を本に和歌を詠むことは、古来の本歌取りの技法と重なるなど他教科との連携を図った例としての評価を頂きました。一方で、「漢字仮名交じり書」独自の良さや「仮名の書」との関連、仮名をどこまで活かすのかなど御助言を頂戴致しました。また、御出席くださった先生方からは本場に沢山の御意見や御感想、先生方の実践を教えてくださいました。大会が終わり読み返しております。

最後になりますが、このような全国の中で発表させていただ

施15県、平成30年度当初に28名の採用があった。

おわりに

今年度も全国高等学校書道教育に関する実態調査に御協力いただき、ありがとうございます。芸術においては、科目名、標準単位数ともに変化はありませんが、他教科では、科目名や標準単位数が変更になったものも少なくありません。各学校の現場では、すでに新教育課程の編成が始まっていることと思われまふ。これに無関心であるのではなく、書道、あるいは芸術教科として積極的に当該の委員会等に参加し、授業確保に努めていくことが不可欠です。今後とも、本調査へご理解とご協力をお願い申し上げます。

事業部

事業部より

事業部長

岡山県立瀬戸高等学校

教諭 研山 勇人

事業部では、平成三十年の事業計画として、「後援事業の活動支援」と三年前から取り組んでいる「全高書研ホームページの運営」「大会集録のデジタル化作業」をさらに進めていきます。

一、後援事業の活動支援

本会の会則には、事業部の活動として、「会員相互の研修と後援事業の活動支援」と明記されています。三年前から全高書研ホームページも開設されたので、本会后援事業について、随時ホームページで紹介し、活動支援を進めていきます。

二、全高書研ホームページ

本会諸活動の対外的発信と会員相互の書道教育実践の情報共有などを目的として、三年前の九月からホームページを開設しました。活動趣旨・会則・組織・会務報告・会報の公開・後援事業の紹介・全国大会などのお知らせ・NEWS・LINK情報等のページと、研究部・調査部・事業部・渉外部・出版部・庶務部の各部の活動報告のページで構成され、順次情報を更新していきます。

ホームページURL

<http://zenkoushoken.sunbindcloud.jp/>

へまたは、検索サイトで「全日本高等学校書道教育研究会」で検索)

三、大会集録のデジタル化作業

三年前から大会開催後の集録を、資料整理を目的としてデジタル化に着手していきます。長野大会以降の集録はPDFデータにして、ホームページ上に公開

開しています。今後も引き続きデータ化を進めていく予定です。また、以前の集録については、会員の皆様の御協力を得ることもありますので、その時はよろしくお願ひいたします。全高書研の最新情報並びに各会員の研鑽の一助となるよう、ホームページの更新をおこなってまいります。ぜひ御活用ください。

宮崎大会 情報交換会 報告

各ブロック別

情報交換と

全国研究大会開催

ブロック候補地

(開催都道府県)

選定の話し合いに

ついて

副理事長

聖徳大学附属女子高等学校

教諭 小室 信男

第四十三回全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会の情報交換会では、メインホールの客席をブロック別着席指定

エリアに区分けし、各ブロック常任理事の先生(または司会進行をご依頼した先生)に協議の司会進行をいただき、ブロック別の情報交換・意見交換を実施しました。

宮崎大会情報交換会は、各都道府県からご参加の先生方の情報交換や意見交換をとおりして各都道府県の活動状況や地域事情などの相互理解と情報共有を進め、高等学校書道教育振興のための諸課題を全国の会員で共有しその振興と活性化をはかっていくこと、また高等学校書道教育の研究大会の開催ブロックや開催都道府県の選定に向け、各都道府県の情報をブロック内で共有し全国研究大会の開催地選定を長期的に検討していくことを目的として、その協議の場として開催したものです。運営にご協力いただきました先生方に御礼申し上げます。

一、全国8ブロック内の

各都道府県地域情報の共有

宮崎大会参加の全ての先生方によるブロック別協議(北海道・東北・関東・東海・北信越・近畿・中国・四国・九州・沖縄)では、各都道府県の年間の活動内容、教員配置や採用試験の実施状況、教育

課程の運用状況、各都道府県書道教育研究会の課題などの報告や調査部による全国調査の都道府県の調査結果の補足説明を各都道府県の先生方に行っていただきました。

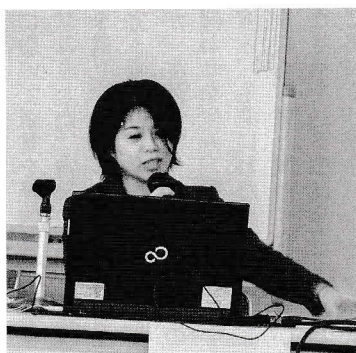
今回のブロック別地域情報交換の各都道府県からの発表内容は二月九日開催の宮崎大会総括会議および全国幹事会で「宮崎大会情報交換会報告(今後の全国研究大会開催計画案のブロック別協議)」としてその報告を行い、その概要は全日本高等学校書道教育研究会ホームページに掲載してまいります。ぜひご覧ください。

二、全国研究大会開催

ブロック候補地(開催都道府県)選定の協議

全日本高等学校書道教育研究会本部役員会では平成三十年九月二十二日開催の全国幹事会及び全国役員会において、二〇二六年までの全国研究大会開催ブロック案を事務局案として提示し、全国役員会で協議・審議いただいた内容を、宮崎大会情報交換会で報告いたしました。それを受けて、情報交換会後半では全国研究大会について、開催候補ブロック内において該年度に開催実施ができるかどうか

いたことで得られた学びは非常に多く、感謝の気持ちでいっぱいです。全国の先生方からいただいた感想等は私の宝物です。今後も書道教育の実践に向けて、日々研鑽を続けて参りたいと思います。本当にありがとうございます。



各部から

研究部

研究部報告

研究部部长

大東文化大学第一高等学校

教諭 佐藤 敦子

第四十三回宮崎大会では、研究部の資料として「高等学校学

習指導要領比較対照表」を配布させていただきました。指導要領改訂に関するスケジュールとしまして、平成三十年度が「周知・徹底」の年度であることを改めて確認させていただきます。

また、二日目の大会講評の際には、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官、豊口和士先生に「指導要領比較対照表」と「指導要領改訂解説」とを対比しながら、下記の内容について解説していただきました。詳しくは、当日配布の資料をご参照ください。

一、書道Ⅰの目標について改善内容

二、学習指導要領の方向性「どのように学ぶか」
主体的、対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。

三、芸術科書道における「見方・考え方」↓「書に関する見方・考え方」
感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化の関わりから、意味や価値を見いだすこと。

四、〈芸術科〉改訂の基本的な考え方

五、〈高等学校芸術科書道〉改訂の要点
六、〈芸術科書道〉改訂のポイント

A 表現：「現代」という新たな視点
B 鑑賞：指導内容の充実
「風趣」について

七、文字文化
書写と書道をつなぐ根幹となるものである。

「中学校学習指導要領」の解説について

最後にになりましたが、各都道府県におかれましては、指導要領改訂に関して「周知」と「徹底」に向けて授業研究を進めていただき、今後とも研究部の活動にご協力いただきますよう、宜しくお願いいたします。

調査部

平成三十年全国高等学校書道教育に関する実態調査について

調査部長

埼玉県立大宮高等学校

教諭 吉木 佳尋

全高書研熊本大会で発表した内容の一部について、取りまとめて報告します。

一、学校数に対する書道開講校数の割合について
・ 全国平均 64.4%

二、書道教諭の持ち時間数について(国公立全日制)
・ 全国平均 13.7時間

三、書道開講校数に対する教諭の割合について(国公立高等学校)
・ 全国平均 53.2%

○ 国公立高校の専任教諭
・ 専任 890名(幹+専+再フル+臨)+兼任 327名

四、国公立高等学校における書道の開講状況について
・ 全国平均 25.7%

(1) 教育課程の状況について
〈全日制〉

書道Ⅰのみ開講 33.1%
書道Ⅱまで開講 20.2%
書道Ⅲまで開講 16.0%
書道Ⅳまで開講 20.2%
書Ⅰ+学校設定科目 6.8%
書Ⅱまで+学校設定科目 13.4%
書Ⅲまで+学校設定科目 9.8%
その他 0.7%

(2) 必修と選択の開講状況
〈全日制〉

○この場合の「必修」とは芸術教科内の選択をさし、「選択」とは他教科との選択をさす。

書道Ⅰ
必修 1619校 選択 256校
書道Ⅱ
必修 318校 選択 799校

書道Ⅲ
必修 27校 選択 462校
学校設定科目
必修 11校 選択 558校

五、「学校設定科目」について、延べ開講数 887講座

六、各学校の書道教育の現状について

- ① 「単位数の増加」 55校
- ② 「単位数の減少」 56校
- ③ 「講座数の増加」 156校
- ④ 「講座数の減少」 203校
- ⑤ 「受講者数の増加」 351校
- ⑥ 「受講者数の減少」 471校
- ⑦ 「必修が選択に」 10校
- ⑧ 「選択から必修に」 4校
- ⑨ 「学校設定科目の増設」 58校
- ⑩ 「学校設定科目の削減」 18校
- ⑪ 「その他」 111校

七、指導主事について

教育委員会指導主事においては、専任・兼任をあわせ配置されている県は28県であった。教育センター指導主事の配置県は9県にとどまった。書道教育の重要性・有用性を説き配置の増加を推進し、より充実した教育活動を展開できるように努力していく必要があると考えられる。

八、教員採用試験状況について

平成28年度は教員採用試験実施17県、平成29年度当初に28名の採用があった。平成29年度は実

かや受諾状況にあるかどうかなど、ご参加の全ての先生方にブロック別にご協議いただきました。

【二〇二六年までの全国研究大会開催ブロック(案)】

二〇二二年 第四十七回全国研究大会 関東ブロック

二〇二三年 第四十八回全国研究大会 近畿ブロック

二〇二四年 第四十九回全国研究大会 東海ブロック

二〇二五年 第五十回全国研究大会 北信越ブロック

二〇二六年 第五十一回全国研究大会 東北・北海道ブロック

この開催ブロック(案)策定においては、これまでの全日本高等学校書道教育研究会全国研究大会開催実績と、全高総文祭・高文連研究大会・高校総体・国民文化祭・全日本書写書道研究大会などの開催実績および今後の開催予定を勘案し、暫定的に全日本高等学校書道教育研究会全国研究

大会の開催ブロックを設定したものです。

今回の宮崎大会情報交換会における全国研究大会開催都道府県選定の協議内容については、今後各都道府県理事の先生により、各都道府県ごとの事務局会議や委員会や総会の際に、「全日本高等学校書道教育研究会全国研究大会開催都道府県の検討関連議事」としてご報告や提案・審議などを進めていただき、都道府県での全国研究大会の開催地受け入れの協議・審議を開始いただきますと考えております。その協議・審議に合わせ全日本高等学校書道教育研究会事務局からは全国研究大会運営の予算措置・実施計画のタイムラインなど本部事務局より各都道府県理事に送付させていただきます。今後も高等学校書道教育の振興と活性化に向け、全国の先生方のご協力をよろしくお願いたします。

各地区 事務局報告

愛媛県より

愛媛県立東温高等学校 教諭 宇都宮 澄美

平成30年度 全日本高等学校書道教育研究会役員一覧

Table listing the members of the All Japan High School Shodo Education Research Association for the Heisei 30th year. It includes roles like 顧問 (Advisor), 会長 (President), 副会長 (Vice President), 常任理事 (Executive Director), 調査部長 (Director of Investigation), 出版部長 (Director of Publication), 渉外部長 (Director of External Affairs), 庶務部長 (Director of Administration), 研究部長 (Director of Research), 事務局長 (Director of Administration), 事務局次長 (Assistant Director of Administration), 書記 (Secretary), 会計 (Accountant), 監事 (Auditor), and 大会担当役員 (Staff for the Conference).

【活動状況】

平成三十年度の愛媛県の活動状況の主なものは次のとおりです。

五月

県高教研役員会
県高教研総会・研究協議会
(於 松山東高等学校)

八月

県高文連生徒実技講習会
(於 大洲青少年交流の家)
全国総合文化祭長野大会
参加(五名)
県高教研教員実技講習会
(於 伊予高等学校)

十一月

県高文連総合文化祭
(於 愛媛県美術館南館)
全高書研宮崎大会参加(七名)

十二月

県高教研書道教員書作展
(於 愛媛県美術館南館)
県高教研大会芸術部会
(於 松山南高等学校)

二月

県高文連東予地区高校美術・工芸、書道展
(於 あかがねミュージアム)
県高教研学生書道展
(於 愛媛県美術館南館)

これらの活動の他に、五月には二〇二一年度開催されます全高書研愛媛大会に向けて、準備委員会を立ち上げました。役員組織網を構築し、各部での主な任務等の確認を行い準備を進めています。研究部では、十二月から月2回程度の研究会を実施し、授業研究や研究発表、誌上发表の内容について活発に意見交換を行い、充実した発表を目指して話し合いを重ねています。今後は、日程や会場の選定、企画展などの催しについても検討していく予定です。来年度の総会では、具体的な大会内容を提示し、御案内できるように努めたいと思います。



全日本高等学校書道教育研究会
会長 荒井 利之
(川崎市立川崎総合科学高等学校長)

このたびの宮崎大会において「書道教育の可能性を考える」自らの課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成」をテーマに約四〇〇名のご参加を頂きま



た。教科調査官の豊口和士様による改訂の主旨についてのご講話を頂き、社会に開かれた教育課程を実現するために私たちがこれからの取り組みに刻み込まないことをしっかりと胸に刻み込まれたことと思います。参加された先生におかれましては、どうか各都道府県の研究会でこれらの内容についても触れていただき、これからの書道教育のあり方について話し合っていただけにと存じます。

併せて、平成三十一年一月七日(月)に文部科学省へ伺い、総会で承認を頂きました要望書を提出して参りました。内容としては、
一、芸術科書道においては学習指導要領に示された内容を修得し、さらに質の保証へつなげるための単位数増加、二、専門学科において開設される各教科・科目へ書道の設置と科目の設定の二点についてお願いして参りました。感想として今後芸術科(音楽・美術・工芸・書道)が協力し、技術向上だけでなく、芸術教育だからこそできる人格形成、また社会に貢献できるさらなる可能性をお伝えしていくことが必要と強く感



じました。これらを実現するためにも書道教育を担う私たちが、これから社会へ羽ばたく生徒たちをどのような人間に育てたいのか、そのためにはどんな力をつけてあげればよいか、これらの理念をしっかりと持つことが書道教育、しいては芸術教育を無限の可能性へと広げていくのではないかを考えます。この会報が発行されてからまもなく、学習指導要領解説書が発刊されることと存じます。そこにはこれからの書道教育の方向性と可能性が詰め込まれています。皆様と一緒に書に関する見方・考え方をもう一度確認し、四月からの授業を一緒に取り組んでいきましょう。次は岡山大会で皆様とお会いできるのを心より楽しみにしています。

会期日程と会場

◇第1日目 11月14日(木) 会場:ピュアリティまきび

9:30~	10:00~11:00	11:10~12:00	12:00~13:00	13:10~15:30	15:45~17:00	18:30~20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼食	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 11月15日(金) 会場:ピュアリティまきび

8:30~	9:00~11:00	11:10~12:00	12:00~13:00	13:10~14:20
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会・閉会式	昼食	講演会

※併催展 岡山県高校生書道展(岡山県天神山文化プラザ 17時まで)

授業研究・研究協議 11月14日(木)13:10~15:30

A研究テーマ 「【漢字の書】空間把握を印との関連から考える表現活動」

◇【書道Ⅱ】「創作 一創作への道程」

岡山県立岡山一宮高等学校教諭 北村 博典

B研究テーマ 「【仮名の書】他教科との連携を通して、生徒の感性に働きかける学習活動」

◇【書道Ⅰ】「現代版 枕草子の作成 一日本の四季を仮名文字に託して」

岡山県立倉敷商業高等学校教諭 梶谷 純子

C研究テーマ 「【漢字仮名交じりの書】『間』を捉えて紙面構成力を向上させる表現活動」

◇【書道Ⅰ】「自分の思いを言葉に込めて 一日本文化から学ぶ書表現の普遍性」

岡山県立総社高等学校教諭 渡邊 英俊

分科会(研究発表)・研究協議 11月15日(金)9:00~11:00

A研究テーマ 「ICT活用からアプローチする生徒の主体的学習活動」

◇「タブレット機器活用の実践と考察 ～深い学びへ誘うために～」

兵庫県立青雲高等学校教諭 前田 典子

◇「書画カメラの活用と工夫 ～実演を交えた意見交流～」

岡山県立玉野高等学校教諭 西川 佳宏

B研究テーマ 「地域の文化から生徒の感性に働きかける学習活動」

◇「地域の先人の生き方から自己を見つめる ～10年後の自分への手紙～」

岡山県立倉敷南高等学校教諭 板持 裕子

◇「学校所蔵資料を用いた漢字仮名交じりの書の実践 ～一世紀の時を超えて～」

京都府立鴨沂高等学校教諭 西村 大輔

C研究テーマ 「鑑賞における主体的・対話的学びを引き出す学習活動」

◇「生徒のまなざしを切り拓く段階的指導」

岡山県立津山高等学校教諭 安原 亜悠

◇「『主体的・対話的で深い学び』を引き出す鑑賞学習に向けて

～福岡県における『書道Ⅰ』の鑑賞学習の状況と授業改善の取組～

福岡県高等学校書道教育研究部会による共同研究

(お問い合わせ先) 第44回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会
 運営委員長 岡山県立岡山南高等学校 平松 啓吾
 〒700-0933 岡山市北区奥田2丁目47
 TEL:086-224-2226 FAX:086-224-2229
 E-mail:keigo_hiramatsu@pref.okayama.jp
 事務局 岡山県立瀬戸高等学校 研山 勇人
 〒709-0876 岡山市東区瀬戸町光明谷316-1
 TEL:086-952-1031 FAX:086-952-1083
 E-mail:hayato_togiyama@pref.okayama.jp



第44回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会 ご案内 (第3次案内)

岡山大会テーマ

『SHINKA』 ～書教育の新たな展開を目指して～

平成30年3月、高等学校新学習指導要領が公示されました。グローバル化・情報化やAIの急激な発達など、激しく変容する社会の中で生き抜くための資質・能力・確かな学力の育成を図るために、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組が求められています。岡山大会は、書教育の可能性を模索し、新たな一歩を踏み出す大会となります。

大会テーマは『SHINKA』とし、3つの柱で展開します。

A「進化」…時代の変化と書芸術を柔軟に対応させ、表現効果や空間把握の視点をもって、自らの創意を生かし書の美を多面的に捉える取組です。未来を担う生徒たちがこれからの時代を豊かな感性で生き抜けるように支えていきます。

B「心化」…書と文学、美術の融合から生まれる風趣を現代の視点をもって感じさせる取組です。自ら(造語)を育んできた地域の歴史的背景を学び、社会における文字文化との関わりを心に刻んでいきます。

C「深化」…名筆や芸術作品に触れる体験を通して、言葉の響きや運筆のつながりによる余韻や間から生まれる表現効果を感じ取らせる取組です。学びの過程の中で物事を捉える視点や考え方を培い、本質を見定める力を育てます。

この3つの「進化」「心化」「深化」それぞれが触媒となり化学反応を起こすことで、新しい時代に繋がる書教育の可能性を見出すことができるのではないかと考えています。

昨夏の西日本豪雨では、岡山県でも倉敷市真備町をはじめ県内各地で甚大な被害が出ました。全国からの多大なる御支援に対し心より御礼申し上げます。このような状況の中で、書教育の果たす役割は大きく、心豊かに未来を切り拓く生徒を育んでいかなければならないと強い決意をもって大会に臨んでいる次第です。

新元号の幕開けにふさわしい大会となるよう全力で取り組んで参ります。晴れの国岡山での大会に、多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。

会 期	平成31年11月14日(木)～15日(金)
会 場	公立学校共済組合岡山宿泊所 プュアリティまきび 岡山市北区下石井2-6-41 TEL 086-232-0511
大会講師	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口和士先生(予定)
情報交換会	11月14日(木) 15:45～17:00 プュアリティまきび
大会参加費	6,500円(予定)
教育懇談会	11月14日(木) 18:30～20:30 ホテルメルパルク岡山 岡山市北区桑田町1-13 TEL 086-223-8101 会費7,500円(予定)
併 催 展	岡山県高校生書道展(岡山県天神山文化プラザ)
講 演 会	講師 島谷弘幸先生(九州国立博物館長) 演題 「平安朝の和様の書～三跡から古筆へ～」 会場 プュアリティまきび



第45回全日本高等学校書道教育研究会 福島大会 ご案内 (第1次案内)

福島大会テーマ

『豊かな心と生きる力を育む書道教育』 ～文化の力がふるさとの未来を創る～

会 期 平成32年11月12日(木)・13日(金)

会 場 授業研究・研究協議・分科会・併催展とうほう・みんなの文化センター(交渉中)(福島県文化センター)

〒960-8116 福島県福島市春日町5-5 4 TEL 024-534-9191 FAX 024-536-1926

大会参加費 6000円(予定)

※《併催展》「平成32年度 第51回福島県高等学校総合文化祭書道展」

○教育懇談会 平成32年11月12日(木)

サンパレス福島

〒960-8101 福島県福島市上町4-30 TEL 0120-233-809

会費 7000円(予定)

全高書研福島大会お問い合わせ先

〒961-0851 福島県白河市南登り町54

TEL 0248-24-1116 FAX 0248-24-2778

福島大会事務局長 白河高校 教諭 佐藤真紀

メールアドレス sato.maki@fcs.ed.jp

福島県高書研HPのURL <https://sites.google.com/fcs.ed.jp/fukushima-ksk/>

日 程 (案)

◇第1日目 11月12日(木)

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～15:30	15:45～17:00	18:30～20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼食	授業研究	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 11月13日(金)

8:30～	9:00～11:00	11:20～12:30	12:30～13:30	13:30～
受付	分科会 研究協議	全体会 閉会式	昼食	書道展鑑賞

編集後記

全高書研会報八十六号をお届けします。宮崎大会長の長津和彦校長先生をはじめ、ご多忙極まりない中、ご執筆いただきました先生方には深く感謝申し上げます。

宮崎大会は昨年十一月十五日から十六日にかけて『書道教育の可能性を考える』を大会テーマとして開催されました。一日目の授業研究では「生徒の主體的な学びを意識した授業」をテーマとして二本の授業が実施されました。どちらもグループやペアによる学習によって生徒の主体性を引き出しながら作品に反映させる一つの方向性を示していたと思います。二日目の分科会ではそれぞれの先生方が当該発表に至るまでの試行錯誤やご苦労が窺い知れるばかりか、この機会に得られた経験や学びが全国の高校書道教員の財産になるであろうと感じさせてくれました。

大会運営委員長の湯地先生は授業研究も行うという驚異的なパワーを発揮され、見事に宮崎県を一つにまとめ上げられました。宮崎県の先生方の心温まるおもてなしによって、本当に充実した大会を過ごすことができたと思います。

二月九日には東京で無事引き継ぎ会も終了し、次の岡山へ襷が渡されました。昨年七月の豪雨災害によって被災された方々をはじめ、諸関係機関においては復興途中の大変な状況下であると推察申し上げます。そのような中でも、大会を開催いただく岡山の方々に対して敬意と感謝の念を抱きます。全国から一人でも多くの会員の方々がご参加いただきますようお願いいたします。

(竹嶋)